

コレクションクエスト

ふだん公開していない収蔵物を紹介します。さあ、標本の世界を冒険だ!

モルフォチョウは翅(はね)を広げると10~15cmになるチョウで、北アメリカ南部~南アメリカアマゾン川流域に約80種類が生息します。アゲハチョウやクジャクチョウと同じタテハチョウ科ですが、モルフォチョウの成虫は花の蜜はあまり好きではなく、主に腐った果物や動物の死骸をエサにしています。メタリックブルーの美しい翅で世界的に知られたチョウですが、青いのは翅の表だけで、裏側は茶色です。つまり、翅を閉じて物にとまわるときは、草木の色に紛れて鳥などの敵の目をあざむきます。生き物の美しさだけでなく、アマゾンのジャングルでの生存競争の厳しさも感じられる標本です。

り好きではなく、主に腐った果物や動物の死骸をエサにしています。



モルフォチョウ SMAC 03326

文・写真/学芸員 山崎 真実

メタリックブルーの美しい翅で世界的に知られたチョウですが、青いのは翅の表だけで、裏側は茶色です。つまり、翅を閉じて物にとまわるときは、草木の色に紛れて鳥などの敵の目をあざむきます。生き物の美しさだけでなく、アマゾンのジャングルでの生存競争の厳しさも感じられる標本です。

File No.3 はくぶつかんのたまご展

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、様々な活動を紹介いたします。

博物館にとって子どもの気付きや学びは「たまご」のようなもの。風変りなタイトルで開催したのが、子ども向けイベント「はくぶつかんのたまご展」です。展示に隠れたヒントを巡って答えるクイズラリーなどの小さな子どもから楽しめるワークショップを用意。3月11~25日までの15日間で六百人以上が訪れ、子どもたちの声が館内いっぱいに広がりました。開催のきっかけは、徐々に訪れた親子の「いつ来ても変化がない」の一言。子どもたちに何度も来てもらえる方法はないか。スタッフたちの自問自答が、このイベントにつながりました。「ここ、前より楽しくなったね」。期間中訪れた男の子の一言が、今もスタッフの励みです。



行列ができるほど人気を集めた顕微鏡コーナー



- 交通アクセス**
- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
 - 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約15分

札幌市博物館活動センター information

入館料: 無料
開館日: 火曜~土曜 開館時間: 10時~17時
休館日: 日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



ホームページアクセス QRコード



02-005-171235
29-2-842

発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージスレターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。

Muse Letter

札幌市博物館活動センター 情報誌 ミュース・レター

No.67
July 2017

エゾシマリス

エゾシマリスはネズミなどと同じ齧歯目(げっしもく)の小動物で、背中にある白と黒のしま模様が特徴です。日本では北海道だけに生息し、冬は地面に穴を掘って冬眠します。札幌では中心部に近い山にも生息し、その愛らしい姿を間近で見ることができます。



撮影: 國本 昌秀

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

さっぽろのクジラはすごい!!

クリーニングが終った化石の肩～指の化石



サッポロカイギュウに次いで、南区小金湯から、世界を驚かす化石が産出しました。今度発見されたのは大きなクジラの化石です。サッポロカイギュウが世界最古の大型海牛であることが明らかになった翌年の2008年10月、サッポロカイギュウの産出した地点から上流へおよそ500mの豊平川からそれは発見されました。発見者は、市内に住む森 和久さんです。森さんは、医師でしたので大きな化石の骨を見て、人間以外の動物の骨であることはすぐにわかりましたが、果たして何の骨なのかを調べるために、博物館活動センターに化石の一部を持ってきてくれたのです。発見現場を確認した結果、連続する6個の背骨のほかに、腕の骨が一部露出していました。5年にわたる発掘により、尻尾と頭の先端を欠くものの、ほぼ全身のクジラ化石であることがわかりました。このクジラが生きていた年代は、サッポロカイギュウの産出した820万年前より古く、産出した地

層「小樽内川層」の一番下位、1190万年前よりも新しい年代で、後期中新世という時代です。

さて、札幌のクジラ化石はどんなクジラなのでしょう。クジラの仲間、食べ物の取り方によって大きく2つのグループに分けられます。ひとつは「ヒゲ」でこしとる方法、もう一つは歯で取る方法です。ヒゲは三角形の板状で、ヒゲ板どうしが上あごに隙間を作ってズラリと並んでいます。ヒゲクジラ類は、エサになる小さなエビなどを海水もろとも口にいれ、ヒゲとヒゲのすき間から海水だけを吐き出し、口の中に残ったエサを飲み込みます。現在生きているヒゲクジラ類は、体長6mのコセミクジラから30mを超えるシロナガスクジラまで、比較的大型のものが多くグループです。一方、歯を持つハクジラ類は、水族館でおなじみのイルカくらいの体長2～3mが代表的なサイズです。このことと、出てきた札幌のクジラ化石の背骨の大きさやその特徴から、ヒゲクジラ類であることがわ

かりました。

次に、ヒゲクジラ類の中のどのグループに入るのか細かく調べていきます。後期中新世には、セミクジラ科、ナガスクジラ科、ケトテリウム科の3つのグループのヒゲクジラ類が生息していますが、個々の骨が大きくて、前後方向に長い背骨の形態はナガスクジラ科に似ています。ところが、頭の骨の特徴はセミクジラ科と一致するのです。つまり、体と頭では異なったグループの特徴を持つ、不思議なセミクジラ類であることが判明したのです。セミクジラ科は今も生きているヒゲクジラ類では最も古い歴史をもつクジラ類であり、世界中から化石が産出していますが、最も古い標本は、前期中新世、およそ2000万年前の南米パタゴニアから産出したものです。その次に古いのは中期

中新世、およそ1500万年前の北米カルフォルニアから産出したもので、いずれも6m程度の中型のセミクジラです。今も生きているセミクジラ類を含め10mを超える大型のセミクジラ類は中新世の末から鮮新世(およそ600万年前以降)に集中していました。セミクジラ類が登場した中新世は、セミクジラ科の進化にとって非常に重要な時代なのですが、産出した化石が少なく、ブラックボックスのような存在です。札幌のセミクジラ化石は明らかに10mを超える標本で、時代はおよそ1000万年前と考えられることから、このブラックボックスに明かりを灯す貴重な標本になることは間違いありません。これから次々と明らかになる研究の成果を楽しみにしていきましょう。

文・写真/学芸員 古沢 仁

ホットコラム

展示室につき モスラありますか?

○月×日 展示解説員 前田亜沙美



ある日、お母さんと来館した3歳くらいの男の子がもしもじしながら「モスラはありますか?」と、質問してくれました。モスラは架空の生物ですが、モデルになったといわれる蝶や蛾はいくつかあります。その中でもモスラの特徴でもある目

玉模様はクジャクチョウがモデルだとも言われており、クジャクチョウを見つけると思わず「モスラだ!」と言ってしまっても多いのではないのでしょうか? クジャクチョウは世界にも広く分布し



JASRAC 出 1708445-701

ていますが、東アジアに分布する亜種の学名は *Inachis io geisha* ヽ、この亜種名【geisha】はその名のとおり【芸者】のことです。クジャクチョウの鮮やかさを煌びやかな芸者さんに喩えて名づけられたそう、なんとも粋な学名ですね。そんなクジャクチョウ、当センターにも標本が展示されています。

もちろんモスラ好きな男の子にもクジャクチョウを紹介しました。モスラにそっくりな姿をみられて男の子も大喜び! 御礼にとモスラの歌を私に歌ってくれましたよ。可愛い歌声をありがと。またモスラクジャクチョウを見に来てね! ※モスラのモデルについては諸説あります